次代へ

在宅勤務 好きな街で好きな時に

田沢 由利（たざわ ゆり） さん

「在宅で仕事ができれば、女性は仕事が続けられる。それが私が出した結論でした」

1985年、大学を卒業し、大手家電メーカーに入社。企業が女性の活用に力を入れ始めた時期だった。男女が平等の仕事はやりがいがあったが、社内制度はまだ不十分。結婚、出産を機に退職し、パソコン関連の連載などを担当するフリーライターとして仕事を続けた。家族とともに暮らし、執筆活動を続けることには満足していた。

「当時、会社の同期の女性は結婚や出産を機に、ほとんどが退職して専業主婦になっていました。職場復帰は、本人がしたくても困難。その現状を何とか変えなければと、真剣に考えました」

そんな時、生命保険会社に勤めていた夫の転勤で、北見に移り住んだ。雄大な自然に囲まれているのに、10万人を超える人口があり、地方の中心都市としての機能も備えている。そんな北見の環境が気に入り、定住を決めた。

「今日は天気がいいなと思い立ったら、知床でも摩周湖でも行くことができる。そんな北見が大好きになりました。ところが、環境が良くても、仕事がなければ、やっぱり生活していけないと思ったのです」

そこで、目を付けたのがインターネット。ネットを使えばどこでも仕事ができると考え、テレワーク（在宅勤務）の会社「ワイズスタッフ」を起業した。今では、全国約140人のスタッフが、ホームページ製作やメールマガジン編集などを行い、50以上のプロジェクトが同時並行で進む。夫も生保を退社し、妻の会社で一緒に働いている。

次の目標は、ワイズスタッフで確立した在宅勤務の方法を、社会に広げることだ。2008年9月には、テレワーク普及を支援する会社を新たに設立し、理想の職場づくりの手伝いに乗り出した。

「全国調査でも、北海道のマチに住みたいという人はとても多い。だから、北海道は在宅で働くには理想的な場所なのです。好きな時に好きな場所で仕事ができる、そんな社会が実現できればと思っています」

テレワークが当たり前になれば、地方の過疎化に歯止めがかかり、地域間格差も解消される。それが、人間らしい幸せな生活につながる――。そう信じている。（森井雄一）

（「次代へ」は今回で終了します）

半世紀後へのメッセージ

北見で起業し11年

「ワイズスタッフ」社長。＊シャープ勤務、フリーライターを経て1998年、北見市で同社を設立。パソコンやインターネットを駆使し、自宅などで場所や時間に縛られずに働く「テレワーク」の推進に力を注ぐ。総務省地域情報化アドバイザー。北海道総合開発委員会参与なども務める。奈良県出身。47歳。